

【フットケアコース講師紹介】

担当：キャリアアップ講座総括

井上 祐子 先生（足のナースステーショングループ 統括責任者）

看護師

1992年より透析看護師としてフットケア・下肢救済に携わり、足病変の予防から治療に難渋し救済できない方々の看護過程において支え寄り添いながら思いを看取るすべと治療に格闘。

在宅医療の推進が目標とされる社会状況や医療改定により、2014年フットケアに特化した垣根のない独立看護師として、下肢救済を願い在宅連携の基盤づくりやゲートキーパー（架け橋）として足のナースステーション High Five を設立し事業展開する。現在は、医療現場でのメディカルフットケアについてのスタッフ教育や体制づくり・介護施設での高齢者に対するフットケア・在宅診療や訪問看護ステーションと提携して多科・多職 種医療連携を担う下肢救済・フットケアの啓発をライフワークとして活動している。

尚、足もと元気・健康寿命サポート事業として、知的障害児童・難病を患う方々への歩行を支えTEAMフットサポーター事業として社会貢献を行う。

（活動）日本下肢救済・足病学会九州沖縄地区評議員/佐賀実践フットケア研究会副代表

担当：創傷管理

古川 雅英先生（社会医療法人 敬和会 大分岡病院院長、創傷ケアセンター長、形成外科部長）

1989年 大分医科大学医学部卒業。長崎大学形成外科入局

1993年 大分医科大学歯科口腔外科入局

1995年 形成外科専門医取得

1998年 大分医科大学付属病院歯科口腔外科 助手

2005年 大分岡病院 マキシロフェイシャルユニット部長

2009年 学位取得 2010年 大分岡病院形成外科部長、創傷ケアセンター長

2012年 大分大学臨床教授

2015年 大分岡病院 副院長

2021年 大分岡病院 院長 現在に至る

全国的にも珍しい1施設完結の創傷ケアセンターで、糖尿病、透析患者の救済治療を積極的に行っています。皆さんと一緒に患者さんのフットケアを考えたいと思います。

担当：糖尿病足病変の看護

竹藤 五月 先生（足のナースステーション 癒 代表）

看護師/糖尿病認定看護師

糖尿病患者様の療養指導やケアに長年関わる中で足病変で悩む方が多く、その悩みがとても深刻であることに直面した経験から、より専門的な療養指導やフットケアをご提供できるようになり

たいと考え糖尿病看護認定看護師の教育課程に進学。

総合病院でのフットケア外来の立ち上げとフットケアの実践を経験する中で、フットケアにより血糖コントロールが改善し前向きに療養生活を送ることができるようになった患者様、痛みから開放され笑顔になるお姿を拝見し、フットケアの力を再認識しました。また、ケアを通じてお互いに心が通い癒やされる時間を過ごすことができるフットケアの力に魅了され、足を守る知識の啓発と重症化する前に相談やフットケアを気軽に受ける場所作りをしたいと考えていました。フットケアを専門とした独立看護師を目指し、町の足の保健室を作りたいと模索していた中、足のナースステーションの井上総括責任者とグループの皆様と出会うことができ足のナースステーション癒として現在活動しています。

宗像市の自宅サロンを拠点とし行政や地域の機関、団体・個人との連携を図りながら、訪問フットケア、月に1回の定例のエキスパートを招いた足の相談会（宗像市、大牟田市）、住民の方や子育て中のママなどを対象にした足を守る啓発活動を楽しく実践しています。

担当：病態に沿った栄養管理

入部 瑠夏 先生（医療法人 ひらまつ病院 ひらまつ在宅クリニック 管理栄養士）

在宅訪問管理栄養士/病態栄養専門管理栄養士/腎臓病療養指導士/佐賀糖尿病療養指導士/食品衛生管理者

これまで病院管理栄養士として集団給食調理、給食管理、臨床栄養の経験を積み、病院内では急性期、回復期、特殊疾患など、幅広い病態に沿った食事療法について、食事の時間には病棟を巡回し、食が進んでいない場合、原因を探り、次の献立メニューへと活かし、胃瘻での注入を行う場合は消化器症状や、手技での工夫も含めチーム医療を行なってきました。

現在、在宅訪問管理栄養士として、入退院した病院から、地域施設、在宅療養されている方々へ、治療食はもちろん、一貫した食形態の誤嚥予防や緩和期など、在宅での介護者を含めた「食」の悩みに向き合い、一緒に解決できるよう取り組んでいます。

担当：透析足病変の看護

藤本 圭一郎 先生（足のナースステーション スマイル 代表）

看護師/透析技術認定士/フットケア指導士/肝炎医療コーディネーター

2003年より約20年間透析医療に従事し、透析患者様を中心にフットケアや下肢救済に携わり、透析患者特有の様々な足病変を経験。透析患者は足病変の発生率が高く、早期発見・早期介入が必要であるが、日々透析中の管理を実施しながらの予防的フットケアに苦慮し、救肢困難な方々へ寄り添う看護に奮闘。一人でも多くの救肢を目指し、2016年にフットケア指導士を取得する。フットケア指導士として臨床の現場でフットケアを実践する中で、フットケアを必要とする人々が数多く存在していることを実感し、足専門の看護師として独立を決意した。

2023年6月に「足のナースステーション スマイル」として活動を開始した。現在、大分県の医

療機関と連携し大分県を中心に老若男女を問わず、県民が「笑顔で歩き過ごせる未来を創るコミュニティを目指して」をテーマに、足元からの救済事業として社会貢献を行う。

(活動) JFCPM 九州・沖縄地方会 フットケアの日啓発活動推進委員会ワーキングメンバー

担当：動脈・静脈還流障害について

長利 麻衣子 先生 (足のナースステーション 歩っと Life 代表)

看護師/血管診療技師/弾性ストッキング・圧迫療法コンダクター

総合病院で下肢救済治療に関る中で、糖尿病や血液透析患者における下肢切断患者の予後が5～10年である事実を知る。血管関連資格を取得し、動脈・静脈・リンパ領域における脈管疾患看護の概念を学び実践した。フットケア外来で「もっと早くに足が大切だと知りたかった。誰も教えてくれない。」と嘆き悲しむ患者の声を聞き、(地域の下肢救済を実現するために、病院ではなく地域に出て、早期発見の役割を担うキーマンが自分の使命だ)と再認識。

予防フットケア事業を行うために独立看護師を目指していた頃に、足のナースステーション事業に出会い理念に共感。足切断を回避し、悲しみの連鎖を断ち切るため、足の循環不全の予防と適切なフットケアによる「知多半島下肢切断ゼロ」を掲げ、2022年8月愛知県半田市に『足のナースステーション歩っとLife』を開業。

地域密着型フットケア関連事業を展開。ドプラ血流計とフットケア器材を持ち運び、下肢救済のため知多半島地域を飛び回る。現在は、店舗事業、病院でフットケア外来運営、介護施設出張ケア、離島や過疎地域へ出張ケア、市民講座講師、高齢者サロンへの啓発活動、マルシェや商業施設でのイベント出店、地域密着型店舗での出張ケアなど行う。

担当：訪問看護の実際と足病変について

城戸 麻衣子 先生 (一般社団法人ライフナビゲート 在宅看護センター佐賀 ほっこり管理者) 看護師

曾祖母を在宅で看取る体験から看護に興味を抱き看護師を目指す。老人保健施設での職務中に、自宅での生活を望まれる高齢者や有後遺症者の方々が自宅での生活について望まれても選択出来ない課題に直面し、2008年10月佐賀県看護 教会訪問看護ステーション入職 訪問看護、看護小規模多機能型居宅介護サービス「野の花」で在宅看護を学ぶ。

2018年4月より、一般社団法人ライフナビゲート在宅看護センター佐賀 ほっこりを開所
ライフナビゲートは、「生命・暮らし・生涯」の3つのLifeを支えます。「ほ：hospitality 思いやり・真心をもって」「つ：two-communication 双方向の意思伝達があり」「こ：core 利用者様を中心とした」「り：recreation 休養と気分転換をお届けする」(活動)2017年日本財団在宅看護センター起業家育成研修 第4期 修了

担当：創傷看護

平田 光代 先生 (足のナースステーション 結び 代表)

看護師/皮膚排泄ケア認定看護師/特定行為研修終了(創傷管理モデル)

慢性疾患の急増や高齢化社会に伴い、在宅現場での専門的な看護必要度が高まっています。2010年に皮膚・排泄ケア認定看護師取得後は、褥瘡専従看護師として病院内で創傷ケア・ストーマケア・失禁関連ケアに携わる中で、足病変の現状を痛感すると共に、創傷治癒がゴールではなく、予防的なフットケアに取り組む必要性を感じました。

しかし、私にはフットケアすべてに対するスキルアップが必要でした。どうすればフットケア技術を身に付けることができるのかと悩んでいる時に、「足のナースステーション総括責任者」である井上祐子先生と出会い、一気にフットケアの魅力に引き込まれ、「独立してみてもいい？」との後押しもあり、2022年2月に「足のナースステーション結び」を柳川市に開業しました。

現在は、サロンやご自宅訪問、入院中の患者様、訪問看護ステーションなど、地域で療養・社会生活を営む方々に対して、足の機能を守る独立看護師として、足もとからの幸せを結び、寄り添えるフットケアを目標に活動させて頂いています。

担当：フットケア（爪・角質ケア）

綱 あけみ先生（足のナースステーション 虹の架け橋 代表）

看護師/透析技術認定士/フットケア指導士

1992年～2015年藤元総合病院透析室勤務、2008年循環器医師と共に透析患者様の足病変の早期発見を目指しASOスクリーニングパスを作成・運用を開始、院内外の透析患者様の足病変看護を行うにはどうしたら良いか格闘しているなか、2019年「フットケアに特化した看護師のキャリアアップ講座」の透析看護の講師依頼を井上統括責任者より依頼される。

透析看護の講師と並行し「フットケアに特化した看護師のキャリアアップ講座」を受講する。

2019年「足の大切さ」や「あたりまえに歩けることの幸せ」について一人でも多くの方にお伝えしたいと考えフットケアに特化した独立看護師（ゲートキーパー：虹の架け橋）として足のナースステーション 虹の架け橋として独立開業する。現在は、デイサービスや障害者施設、透析施設でのフットケアや施設スタッフへの指導を行っている。また、個人宅への訪問や自宅サロンでのフットケアを実施している。

（活動）宮崎県透析ネットワーク運営委員

担当：フットケア（爪・角質ケア）

北島 民恵先生（足のナースステーション 一歩 代表）

看護師/佐賀県糖尿病療養指導士/フットケア指導士

自立した女性になるようにと父の勧めで看護師を目指す。1989年より10年、北里大学病院勤務。眼科病棟で視力低下した方の看護や老人看護を学び、腎・泌尿器科病棟では、透析導入時の関わりや腎移植など経験。2016年～2020年ひらまつ病院透析センター勤務。足先の小さな傷から悪化していく状態に何も出来ない自分が情けなくフットケアを学びたいと思い、熊本のフットケア学会で井上総括責任者と出会い、2019年「フットケアに特化した看護師のキャリアアップ講座」を受講する。

当時、進行性の難病を抱え闘病する主人の思い「再度、歩くために一歩を記す」を胸に、一歩の

重みを抱え闘病されている方々の下肢救済に取り組みたいと思い、2020年3月佐賀市富士町の靴工房ジャンボ本店内に店舗を構え、足のナースステーション一步を開業。

現在は、ひらまつ病院非常勤訪問看護フットケア担当、透析施設・高齢者・障害者施設にて、要介護改善・足病変の予防から治療に支え寄り添う看護を目指し日々格闘。

2023年6月より、足のナースステーション本部サロンで、足もとからの笑顔を願いフットケアを行う。

担当：フットケア（爪・角質ケア）

永瀨 智子先生（足のナースステーション 真こころ 代表）

看護師/フットケア指導士

1989年看護師免許取得後、内科・外科・泌尿器科病棟勤務を経て、1997年より24年間透析看護に携わってきました。透析治療を受けられている方の約4割は糖尿病性腎不全で、原疾患別割合で1位を占めます。糖尿病や透析治療を受けておられる方は、動脈硬化や血管の石灰化などで心臓や脳、心臓から遠い足の血管が障害され血液の流れが悪くなり、一度傷を作ると治りにくく、切断を余儀なくされることが多くありません。切断を回避するために何か自分にできることはないかと、フットケアの必要性を感じ、2019年にフットケア指導士を取得しました。フットケア指導士は取得したものの自分のケアのスキルはそうそうなく、どうしたものかと思っていた時に足のナースステーション統括責任者の井上さんとの出会いがありました。その活動を通して、切断回避、傷を作らないための歩行の誘導、足腰膝の痛みへの対応から足もとを整えたあとの傷の治りの早さと患者さんの笑顔にフットケアの奥深さとやりがいを感じ、自分もこんなに人を幸せにする心からの笑顔を見たいと思い、フットケアに特化した独立看護師として2022年6月に足のナースステーション真こころとして開業致しました。

現在は、サロンやグループホーム、障害者施設、透析施設でのフットケアを中心に、大切な足を守り最後まで自分の足で歩けるようにと、足もとからの笑顔を願い活動を行っています。

担当：フットウェア

櫻井 一男 先生（フットクリエイト インソールデザイナー）

1995年5月 「歩くこと、足そして靴」（清水昌一著）という著書に出逢い、深く感銘を受ける。その後、清水氏主宰の「足と靴の科学研究所」にて、ドイツ整形外科靴の勉強を始める。

1996年2月 京都市中京区にて、有限会社フットクリエイトを設立。足と靴についてのカウンセリングを中心とした業務を開始する。

1997年3月 ドイツ整形外科靴マイスター、「カール・ハインツ・ショット氏」、「デイトマール・バルター氏」に師事し、さらに知識、技術を深める。

1998年2月 店舗を下京区へ移転する。

1999年3月 （独）Ped Cad Foot Technology社のオーダーメイドインソール製作システムを

導入。(国内初)

2005年5月 下京区の町屋を改装し新店舗としてオープン。元気で100オクラブ設立。
元気で100オサロン開始。現在に至る

(資格・所属団体)

B S スパング巻き爪矯正法指導者

J.S.C.A 高齢者運動実践マスター指導員

足と靴の科学研究所アカデミッククラス 修了

ドイツ ウルムコレク 足治療への序論 修了

糖尿病足病変セミナー修了証 (ウルム大学病院)

(メディア出演)

NHK ビジネス未来人

NHK ニュース610

TBS ビジネスズームアップ

MBS ちちんぷいぷい

TVO 満点 iアイ 他

(講演先)

保健所・デイケアサービス・自治会・保育所・幼稚園・小学校・学会市民講座・他

(主なイベント)

*2001年2月 テレビ大阪「満点 iアイ」出演

*2001年3月 ぱるるプラザにおいて「歩いて健康 講演会・相談会」を主催 (約300名参加)

*2002年11月 ぱるるプラザにおいて「生活習慣病とウォーキング」を主催 (約200名参加)

*2005年2月 日本フットケア学会 学術集会にて品川区民公開講座 講師

*2008年5月 京都府与謝郡与謝野町保健課足と靴の講演

*2010年3月 第10回日本フットケア学会年次学術集会 [シンポジウム3] 陥入爪を考える

*2010年1月 京都府与謝野郡与謝野町と神戸大学

足からつくる健康プロジェクト2010-2015 共同研究参加

*2010年 日本フットケア学会認定 フットケア指導士講習会 講師

*2014年3月 大阪糖尿病と足病変管理について考える会 講師

*2020年7月 15回日本フットケア学会函館セミナー

パネルディスカッション「巻き爪・陥入爪における治療法の違いを知る」

(執筆等)

・雑誌ランナーズ「なんでも相談室」回答 97年8月、98年9月

・「足病変に合った靴選び」共著 臨牀看護 (へるす出版) 2005

・「あなたに合ったナースシューズを選ぼう」共著 ナーシングトゥデイ (日本看護協会出版会)

担当：除圧・バイオメカニクス

岡橋 伸浩 先生（足病変予防研究所 代表）

- ・大分岡病院創傷ケアセンター顧問
- ・福岡大学病院形成外科 足病変技術専門員

（認定資格）慶應義塾大学大学院経営管理研究科 MBA（Managerial Business Administration）「足と靴のフットケア協会」認定インストラクター&認定アドバイザー 2002年に米国の足病医師たちとミレニア・ウンド・マネジメント社を立ち上げ、下肢の慢性創傷を治療する日本の責任者として活動。下肢の慢性創傷の治療を専門にする創傷ケアセンターを全国の28病院に設立させ、治療プログラムを7年にわたりマネジメントをしてきた。その間、5,000名の患者様の足の治療を運用し、他院で足切断を宣告された患者の76%の切断回避を実現した。その経験から現在の所属で、福岡に在籍してからも九州全域、沖縄、山口、広島までのエリアで実践フットケア研究会の総合プロデュースを担い、10年にわたり実技実践の普及に努めた。また、自らも常時20病院程度のバイオメカニクスを応用したフットウェア外来を担当し臨床現場で経験を重ねている。

（学会・研究会）

慶應義塾大学経営管理学会会員、日本病院管理学会会員 日本フットケア足病医学会会員 ほか（活動）

NPO「TEAM フットサポーター's」代表理事

NPO「日本爪ケア普及協会」理事

社団法人「日本ケアネイル協会」理事

実践フットケア研究会 総合プロデューサー

（論文）

在宅中心静脈栄養法の入院と在宅のコスト比較、在宅中心静脈栄養法の労務費分析他

（著書）

「MBA10人の提言」、「始めよう在宅医療21」他

担当：理学療法

横町知樹 先生（足専門の整体サロン フットエイドスタジオ 代表）

理学療法士/がんリハビリテーション研修修了

大学を卒業後、聖マリア病院に理学療法士として勤務11年間にわたって病気・怪我の患者様に対するリハビリに携わる令和4年、福岡県久留米市に足専門サロン「フットエイドスタジオ」を開業障害を抱える両親を含め、さまざまな方との出会いの中で「足の大切さ」「健康であることの尊さ」を学びました。地域の方々に足の文化を伝え広げ、医療を離れた環境でも、みなさまが生涯安心して歩ける足づくりをサポートしたいと願っています。

【マネージメントコース講師紹介】

担当：ブランディング

槌野 磨 先生

シュンビン株式会社 建築デザイナー ブランディングを起点とした「ブランド力が上がる空間作り」「売上げが上がる空間作り」の店舗デザインを行う。

中小企業向け専門家派遣事業、専門家登録。多業種の中小零細個人事業主より相談を受け、集客・空間作り・広告の指導助言を行っている。

[資格]・インテリアコーディネーター・ブランドマネージャー認定協会 ブランドマネージャー2 級

担当：巻き爪矯正 (B/S スパングセミナー)

柚ノ原 かおり先生 (ペディ長崎 J. 代表)

看護師/フットケア指導士/ B/S スパング認定指導者/

1986年看護師資格取得後、循環器内科、内分泌・代謝内科、消化器内科、NICUを経て、キャリア支援制度を活用し、1993年、米国 Stanford 病院 Cardiovascular Health 研修、その後 St. Francis Memorial Hospital H.A.I Div. 入職。日本人および日系アメリカ人のメディカルコーディネーターとしてナーシングトータルマネージメントに携わる。帰国後、自身の足のトラブルが原因で歩行困難となり一時的には車いす生活を余儀なくされ、初めて足の大切さを痛感したのをきっかけにフットケアを学び始める。数多くの切断肢のケースに立ち会いながらも、当時は予防・早期発見の分野がまだ十分な進展を遂げておらず、特にアメリカで学んだトータルなマネージメントのアプローチを足の健康分野で展開するにはより専念する必要性を感じ、2013年フットケア専門店ペディ長崎(現:ペディ長崎J.)を開業。事業内容として、フットケアサロン、高齢者施設、医療機関、靴屋、各自治体などとの連携を図りながらのフットケアの展開、フットケア講座、足の健康運動指導、講演、イベント開催などの啓発活動も積極的に行う。今回担当する巻き爪矯正 B/S スパングセミナーは、足トラブルの中でも高い保有率である巻き爪へのアプローチに必須と考え、多くの巻き爪矯正法の中でもコストパフォーマンスが良く、何よりも万一取れてしまったとしても皮膚を傷つける危険性が少ないのが特徴である。また特殊技術であるからこそ、経営を支援する上で重要なツールの一つとなりうる。

担当：広告のノウハウを学ぶ・SNS活用と配信

弟子丸 雅理先生

富士通 FOM(現 OA インストラクターとして活動ののち、地元情報誌編集営業を経験、あらゆる業種の取材、ライティング、広告制作を行う。その後独立、佐賀市によるベンチャー 企業インキュベートルーム入居のプレゼンを通過、地元情報ウェブマガジン企画運営を開始。ハーモニアスハート(動物の自然の共生活動団体)で、H22 佐賀市提案公募型協働委託 事業に応募 12

団体中1位で通過、佐賀市との動物共生イベントを開催。以後4年間佐賀市と協働イベントを開催。現在はウェブをメインとした情報発信、イベント企画を行っている。佐賀運営・中小企業向け専門家派遣事業、専門家登録。主に女性向け中小企業・個人へのコンテンツ制作、運用に関するアドバイスを行っている。またウェブショップ管理・運用、管理代行も行う。